

V 学習の進め方

学習のよい習慣を身につけた人は、能率的・効果的な学習ができる。よい学習の習慣は、次の事項に気をつけ、それを忠実に実行していくことによって身につけていくものである。

① 計画を立てて実行する。② 予習・復習をしっかりとやる。③ 一時間、一時間の授業を大切にす。④ ノートのとり方を工夫し、活用する。

そのためには、いつも学習に興味と意欲をもち、自分のペースで向上を求めながら、学校学習と家庭学習をかみあわせ、勉強の仕方を工夫して、効果的な学習ができるように心がけることが大切である。その具体策を述べてみよう。

1 学校学習の場 ―すぐれた「学習学級」をつくろう―

(1) 学習意欲に燃える学級にしよう。

学級全体が協力して学習意欲、勉強に対する情熱をもったクラスづくりをしよう。そして、学級全員の者がすくなくとも現在学習していることだけは完全に理解し、覚えていくようにしよう。

(2) 正しい学習態度のついた学級をつくろう。

始業の三分前には、全員着席して無言で先生がこられるまで予習をして待っている学級。授業がはじまったら、だれもが先生の説明や友だちの発表に耳を傾けている学級。私語のない学級。教え合い、助け合う協力のできる学級。こんな学級こそ、全員の成績がぐんぐんと伸びてくる学級である。みんなで、よく話し合って、正しい学習態度の身についた学級をつくろう。

(3) 授業中によく聞ける態度を身につけよう。

確かな学力を身につけるには、まず、授業中先生の言われることをよく聞いて、学習内容をよく理解することが大切である。

次に、疑問に思ったことや、納得のいかないことは、質問して完全に理解することである。よく質問する学級は、成績もぐんぐん伸びる学級である。こんな質問をすれば笑われはしないかなど思わず、どんどん質問をしよう。

2 家庭学習の場 一かならず復習を実行しよう一

(1) 自分に合った学習計画をもとう。

三年間を見通して、しっかりと自分の学習計画を立てることが大切である。

その場合、一日に何時間勉強するかという「時間決めの計画」だけでなく、何をどれだけ勉強するかという「分量決めの計画」をたてるよう心がけたいものである。

(2) 復習を徹底しよう。

学習には「わかる」という段階と、「できる」という段階がある。ひと通りわかったという段階で勉強をやめてしまうと、テストになるとできない。そこで、復習が絶対に必要となる。確かな力として身につけるために練習、ドリル学習をはじめ復習の徹底を図ろう。

(3) ノートを整理しよう。

はじめてかける電話番号などは、かけ終わるとすぐ忘れてしまう。しかし、自分の家の番号は、決して忘れることはない。この段階になってはじめて知識が身についたことになる。学習したこともこのようにならなければ身についた学力とはいえない。長く覚えるために大切なことは、すでに持っている知識を総動員して、うまく関連づけることが必要である。先生の板書を、なにも考えずにまる写ししても頭の中には、なにも残らない。それは、関連づけに大きな努力を払っていないからである。

先生の話や学習したことを、自分で整理したり、まとめたりしながらノートに書くと忘れにくいものである。楽な勉強よりも、苦労をとまなう勉強の方が実力となるからである。

(4) 学習の習慣を身につけよう。

学習で大切なことは、毎日の規則的な生活への習慣を身につけること、熱中し、集中できる心を育てることである。そのためには、生活のリズムを確立することである。徹夜を一日やってあくる日は、ぐっすり眠りこんでしまうといった不規則な時間帯では、勉強への持続は図れない。勉強することは、苦しい。しかし、やりきったあとのさわやかさを求めてがんばろう。

以上、学習のしかたについて述べてきたが、ほんとうの効果は、勉強をやるという意欲、自分自身との闘いに打ち勝とうとする意志で決まるものである。一日一日の目標をはっきり決め、かならずそれをやりとげることや、時間を区切ってテキパキと勉強するなどして、最低一日二時間の勉強を確保していこう。

次に示されている各教科の学習法を充分活用して、常に決意をあらたにして、学習にとりくんでいこう。